

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)  
／松岡 貴史

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

## 1. 目標・計画

昨年度に申請した科学研究費補助金の結果に基づき、音楽コース全教員とともに「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」を開始する準備をする。  
音楽科授業実践力の育成をめざした教員養成コア・カリキュラムを有効に生かすために、音楽科の基礎的な教科専門科目群と音楽科のコア科目群との関連に着目し、学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科の基礎的な教科専門科目群の内容構成と授業プログラムと評価モデルを開発し、PDCA サイクルを生かしたFDの研究活動の可能性を検討する。

## 2. 点検・評価

科研費については、基盤研究(C)「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」(研究代表者:松岡貴史)の申請を行った。これは、音楽コース全教員で取り組み、学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科の基礎的な教科専門科目群の内容構成と授業プログラムと評価モデルを開発し、PDCA サイクルを生かしたFDの研究活動の可能性を検討するもので、音楽科におけるコアカリキュラムの充実を図り、教職実践演習にて結実した成果を発信していこうというものである。

## I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

## 1. 目標・計画

平成18年度から今日に至る音楽コース新入生の人数の動向を振り返ると、平成18年度は15人と目標人数に達していたが、教員定員の削減の影響もあり、それ以降は19年度9人、20年度10人、21年度6人、22年度6人と減少したがその後、23年度12人、24年度14人と、このところ持ち直しつつある。今後一人でも受験生を増やすには、学会や教育支援事業などの活動を通して、また他大学との交流を深め大学教員を通して本学をアピールし、教育指導の内容と特色を少しでも多くの方々に知っていただくと思う。しかし何よりも大切なのは、日々の教育・研究を誠実にやり、その成果をあげることで、多忙の中にあっても、この根幹が揺らぐことのないようにする。

## 2. 点検・評価

音楽コースの平成25年度大学院入学者は10人で、まだ十分な数ではない。今後も、さまざまな働きかけで何とか定員充足できるようにもっていきたい。学会、演奏会、懇親会など、他大学教員との交流が持てる時には本学をアピールするよう努めてきたし、これからもそうしたい。大学の業務の根幹である教育・研究・運営に誠実に取り組み実績を積み上げていくことが大学の信用につながると信じ、努力している。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ・ 学生が主体的に授業に参加できるよう、発表や討論を取り入れる。
- ・ 複数教員担当授業については、講義内容の関連付けができるよう、さらに連携を図る。
- ・ 授業外でも学生が質問しやすいよう、また教員採用試験に向けての支援をするため、オフィスアワー等を活用する。
- ・ 普段から人間形成に音楽の果たす大切な役割に触れ、学生の創造力、表現力、コミュニケーション能力の伸長をあたたく見守る。
- ・ 学部4年生のクラス担当教員として、学生とのコミュニケーションを大切にし、心の健康を見守り、学生生活を支援する。

#### 2. 点検・評価

すべての授業において、学生が主体的に参加できるよう発表や討論を取り入れている。「初等中等教科教育実践Ⅲ(音楽)」など、複数教員担当科目については、さらに授業改善が進められるよう連携を図ってきた。

授業外でも学生が質問しやすいよう、オフィスアワーその他の時間を活用し、さまざまな学生の学習や研究を支援した。また、教員採用試験のための補習の時間を設け、音楽理論、創作、ピアノ初見視奏、弾き歌い、聴音等の指導を行った。クラス担当教員として受け持っている学部4年次生学生をはじめ、学生とのコミュニケーションを大切にし、学生生活を支援した。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ・ 「中国・四国の作曲家2011in徳島」にピアノ曲及びリコーダーとアルトのための曲を出品するとともに、プロデューサーとして開催の準備をする。
- ・ 管弦楽曲、室内楽曲、ピアノ曲、合唱曲のうちいずれかの作曲をするとともに、必要に応じてピアノ等の演奏をする。
- ・ 昨年度に申請した科学研究費補助金の結果に基づき、音楽コース全教員とともに「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」を開始する準備をする。

#### 2. 点検・評価

5月12日に阿南市夢ホールで「中国・四国の作曲家2012in徳島～創造と交流の祭典～」を開催した(共催:日本作曲家協議会、阿南市・阿南市文化会館)。これは「中国・四国の作曲家」正会員・準会員作品、公募作品、特別参加作品による演奏会で、プロデューサーとして企画・運営を進めてきた。第1部は正会員が徳島の題材にて作曲し子供たちが初演したピアノ作品のプログラム、第2部は室内楽作品のプログラムで、創造をとおして作曲家19名、演奏家22名、子供たち10名と地域の人たちとの交流が広がる祭典を実現できた。正会員としてピアノ曲「大好き!阿波踊り」と「Give Me Tears」 for Alto and Tenor-Recorderを発表(初演)した。「Give Me Tears」は、6月15日、東京藝術大学音楽学部同声会埼玉支部コンサートにて再演された。その他、作曲指導に関する論文の執筆とヴァイオリンソロのための曲の作曲を終え、投稿や発表の準備中である。

科研費については、基盤研究(C)「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」を研究代表者として申請した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

芸術・健康系教育部の教員として、また部長として、本学の運営に貢献する。

### 2. 点検・評価

芸術・健康系教育部の教員として、また部長として、そして音楽コース教員として、本学の運営に関する業務を遂行した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ・教育実習や授業支援等を通して、附属学校との連携を図る。
- ・「中国・四国の作曲家2011in徳島～創造と交流の祭典～」を開催し、創造を通して作曲家、演奏家と地域の人々との交流を図る。
- ・教育支援等を通して、地域社会との連携を図る。
- ・自らの専門性を生かし、国際交流に貢献する。

### 2. 点検・評価

附属中学校の教育実習において研究授業等での指導助言を行うなど、附属学校との連携を行った。社会との連携については、「中国・四国の作曲家 2012in徳島～創造と交流の祭典～」を開催し、創造をとおして作曲家19名、演奏家22名、子供たち10名と地域の人たちとの交流が広がる祭典を実現できた。また、創作、ピアノ、合唱分野等のさまざまなコンクールの審査員を務めた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

芸術・健康系教育部部長として大学の運営に貢献した。教育面では、学生との信頼を大切にしながら、個々の授業の他、教員採用試験対策など課外のような指導にも力を注いだ。クラス担当教員を務めていた音楽コース学部4年次生6人の内、教員志望の5人中3人が教員採用試験に合格し正採用、2人が臨時採用となった。大学院のゼミ生(M2=2名、L1=1名、研究生=2名)の指導にも力を傾け、修了の2名は、それぞれ「初等教育において日常的に実践可能なミュージカルの教材開発の試み」「教師から児童へのメッセージとしての音楽作品の制作」と題する課題研究を行い、現職教員として、作曲をとおして教育に貢献できる、価値ある貴重な実践的研究を行った。研究面では、「中国・四国の作曲家 2012in徳島～創造と交流の祭典～」を開催し、作品発表を行うとともに、創造をとおして作曲家19名、演奏家22名、子供たち10名と地域の人たちとの交流が広がる祭典を実現し、地域貢献できた。